掛合地区の支援状況について

令和2年3月
一般社団法人スクナヒコナ

①掛合地区の現状　－人口・拠点施設

人口：1,454人
高齢化率：40.85%（令和元年度）

拠点施設：掛合交流センター
商店：あり
学校：あり
郵便局等の公共施設：あり
雲南市中心部への距離：
約20分（車移動）

－担い手組織

掛合自治振興会

・平成３０年度、役員・事務局体制を一新
・地区計画の更新時期を迎えている
・６つの専門部会のほか、令和元年度までは有志による任意団体も活動していた（本年度末に終了）
・今回の地区計画更新を機に、自主組織の活動への住民の理解と協力を、さらに高めていきたいと考えている

②掛合地区の課題

□昨年度に実施した住民アンケート結果等をもとに、住民の想いを組んだ「地区計画」（5ヵ年）を検討し、「地区計画書」を作成して地区住民に周知し、次年度からの推進体制を検討することが、令和元年度の課題だった。

③支援状況

自治振興会運営委員会への助言、会の運営支援
・地区計画策定を担う「**自治振興会運営委員会**」への助言を中心に支援活動を推進

地区計画書の作成支援：
・地区住民に計画内容を周知するための地区計画書（中学生以上に1人1冊配布）の作成支援

地区計画の推進体制の検討支援：
・掛合自治振興会運営委員会において、地区計画の推進体制等について助言

④成果見込み

5ヵ年の地区計画が完成
・大きく「人」「暮らし」「環境」「交流」に整理された5ヵ年の地区計画が完成
・新たに「収益事業の創出」「出身者とのパイプづくり」等のテーマも盛り込まれ、「攻め」と「守り」の両方の地域づくりを進めていく意欲が高まった。

地区計画書が完成し、中学生以上の全住民が共有：
・掛合地区の町の様子を表現したイラストを用いた、わかりやすく親しみやすい地区計画書が完成し、中学生以上に1人1冊配布により、地区内の住民がその内容を共有した。

地区計画づくりを通じて、関係者の意欲が向上：
・計画づくりのプロセスの中で、関係者が様々な意見を忌憚なく出し合い、地域づくりへの意欲と情熱が高まった。

⑤残る課題

（１）5ヵ年のロードマップの作成
・地区計画推進の5ヵ年のロードマップづくりは、地域の諸事情により十分な時間が取れず、議論があまり進まなかった。

（２）依然として、住民にとっての「他人事」の懸念
・現在は住民の参加意識が低いため、地区計画の更新を機に、住民の参加意識をどう高めていくかが課題

乗り越えるには？

ロードマップづくりについては、この作業の大切さや、ロードマップの検討方法をアドバイスした資料を作成し、関係者にお渡ししたので、この資料を参考に、次年度の早い時期に進められることを期待している。
住民の参加意識については、一朝一夕には改善は難しいが、今後は自治会等を通じて、地域づくりについて住民と語り合う機会を増やすなど、自主組織のほうから住民に近づいていく動きなども導入して、徐々に改善していくことが望まれる。

総括

◆掛合地区は「田舎の中の都会」的な側面を持つため、住民の参加意識をどう高めていくかが、自主組織活動の大きなテーマ。今回完成した地区計画は、地域づくりについて住民と語り合うツールにもなるので、これを機に、住民と語り合う機会を増やし、徐々に住民の参加意識を高めていくことが望まれる。
◆自治振興会の関係者のモチベーションは、今回の地区計画づくりを通じて、さらに高まったと感じられる。このムードを今後も維持して、計画を一つずつ、着実に実践していくことが期待される。